

【提出様式・CS校】 令和7年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 池袋中 学校

評価対象者数（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
386	386	22	20

領域	豊島区教育 ビジョン 2025 基本方針等	評価 番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に 向けた 改善策				
				児童・生徒				保護者					地域					教職員					自己評価 概要	学校関係者 評価の意見	標 語	
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3	2	1					
Ⅱ	就学前から小学 校・中学校への 円滑な接続	Ⅱ－１	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、 中学校)と連携を図ろうとしている。					46	35	8	1	15	14	2	0	0	0	10	4	1	0	・池袋本町小学校、池袋第一小学校と三校での 連携を行っている。中学校授業体験、部活 動体験、ごみゼロデー、あいさつ運動など、 児童・生徒の交流及び共同学習の効果を高め ている。	・地域の方々にもご理解をいた だいている。	A	・次年度も、池袋中学校、池袋本町小学校、池袋第一小学校 の三校で、小中の円滑な接続に向けて、先述の活動を継続し ながら、授業方法に関しての情報交換を行っていく。	
Ⅰ	学びに向かう力 の育成	Ⅰ－１	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分 かりやすい授業を行っている。	児 童 ・ 生 徒 を 対 象 と し た ア ン ケ ー ト 集 計 表 を ご 参 照 く だ さ い。					35	42	13	6	9	9	6	0	0	0	7	8	0	0	・生徒の学びを見取りながら、定期的に指導 方法の工夫、改善を行っている。また、タブ レット端末を使用した授業例を共有して、教 員の指導力向上を図っている。 ・数学科では習熟度別授業を実施し、個に応 じた授業を充実させるとともに、反復により 基礎・基本の定着を図っている。	・地域の方々に取り組みの説明を 行い、ご理解をいただいた。	B	・取組内容の周知が不十分であった。次年度は積極的に学校 参観週間に来て授業を参観していただけるよう、周知の方法 を含め検討し、改善を図っていく。
		Ⅰ－２	学校は、ＩＣＴ機器やタブレット端末等の活用 により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの 意欲の向上に取り組んでいる。						39	45	6	3	12	13	3	0	0	0	4	10	1	0				
	豊かな心と人間 関係の育成	Ⅰ－３	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をと おして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくり を推進している。						49	47	4	2	3	11	5	0	0	0	9	5	1	0	・問題解決的な学習を取り入れた「考え議論 する道徳」の授業を行っている。道徳授業 の、一層の充実と授業改善を全学年、全学 級、全教員で図ることにより、よりよい生き 方をする力の育成に努めている。 ・生徒の発達段階に応じて、互いの人格を尊 重して生活する態度の育成に努めている。	・地域の方々に取り組みの説明を 行い、ご理解をいただいた。	B	・取組内容の周知が不十分であった。次年度は積極的に学校 参観週間に来ていただいたり、学校だより等で発信したりな ど、周知の方法を含め検討し、改善を図っていく。
		Ⅰ－４	学校は、生命を大切にする態度や思いやり、優 しい心を育てている。						41	42	4	1	17	10	5	0	0	0	9	5	1	0				
	健やかな生活を送るための体力 づくり	Ⅰ－５	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積 極的に取り組んでいる。						46	44	8	2	4	46	44	8	2	4	7	7	1	0	・保健体育科において、体力テスト等の結果 に基づく体力の向上と健康の保持増進を推 進し、男女共習授業において、スポーツに親 しむ態度の育成に努めている。 ・給食のメニューにおいて、外国の食事、地 方食、季節のメニューなどを通して、食育 指導を行っている。	・地域の方々に取り組みの説明を 行い、ご理解をいただいた。	B	・取組内容の周知が不十分であった。次年度は積極的に学校 参観週間に来ていただいたり、学校だより等で発信したりな ど、周知の方法を含め検討し、改善を図っていく。
		Ⅰ－６	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育 に取り組んでいる。						43	48	6	2	6	43	48	6	2	6	10	4	1	0				
Ⅲ	多様な子どもに 対する支援の充 実	Ⅲ－１	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、 早期対応）に学校全体で組織的に対応している。					30	50	2	3	20	10	6	0	0	0	11	4	0	0	・全教育活動を通して、思いやりの心やい じめを許さない強い意志を育てることに努 めている。また、いじめ等の未然防止、早 期発見、早期解決に努め、いじめ防止対策 委員会を中心として組織的な対応により、 重大事案の発生を未然に防止することに努 めている。 ・本校の自閉症・情緒障害特別支援学級の 生徒との交流により、生徒たちの、多様な 背景をもつ生徒への理解が深まっている。	・地域の方々にもご理解をいた だいている。	A	・次年度も全教育活動を通して、思いやりの心やいじめを許 さない強い意志を育てることに努める。また、いじめ等の未 然防止、早期発見、早期解決に努め、いじめ防止対策委員 会を中心として組織的な対応により、重大事案の発生を未然 に防止することに努める。 ・心のアンケート、i-checkも活用して、生徒の状況把握に努 める。 ・本校の自閉症・情緒障害特別支援学級の生徒との交流も継 続し、生徒たちの、多様性へのさらなる理解を深めることに 努める。	
		Ⅲ－２	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一 人一人に寄り添いながら、指導を行っている。					35	43	3	2	22	10	3	0	0	0	9	6	0	0					
		Ⅲ－３	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一 人一人に適切な指導を行っている。					36	36	4	4	25	13	2	0	0	0	8	7	0	0					
Ⅴ	教師力の向上と 魅力ある 学校づくり	Ⅴ－１	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校 生活を送っている。					61	38	1	2	3	10	5	0	0	0	7	8	0	0	・地域や保護者からの声には誠実に対応し、 信頼関係構築に努めている。 ・生徒の考えや思いを傾聴し、信頼関係の構 築に努めた生活指導を心がけている。	・地域の方々に取り組みの説明を 行い、ご理解をいただいた。	A	・次年度も地域や保護者との信頼関係構築に努める。教職員 に対しても地域や保護者からの声には誠実に対応するよう、 引き続き指導していく。 ・引き続き生徒たちの考えや思いを傾聴し、教師、生徒の相 互に信頼しあえる学校を目指し、生活指導を行っていく。	
		Ⅴ－２	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止 め、学校改善に生かしている。					33	48	5	3	16	12	3	0	0	0	7	8	0	0					
	家庭・地域との 連携	Ⅴ－３	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりや ホームページ、学校公開等によって、分かりやす く伝えている。					54	43	7	1	0	13	2	0	0	0	8	7	0	0	・学校だより、学年だより、学級通信などを 発出し、積極的に生徒の活躍の様子を発信し ている。 ・コミュニティ・スクールの取り 組みに関しては、CS委員会を通 して活動の様子を発信している。特に宿泊行 事では、進捗状況を適宜掲載し、取り組みの 周知に努めている。 ・コミュニティ・スクールの取り組みにつ いても、本校生徒のボランティア活動を中心 に、地域での活動に積極的に参加すること で、地域との連携強化を図っている。	・地域の方々にもご理解をいた だいている。 ・コミュニティ・スクールの取り 組みに関しては、CS委員会を通 して、地域連携についての取組が、 昨年度よりも充実したとの認識を いただいている。	A	・引き続き学校だより、学年だより、学級通信などを発 出し、積極的に生徒の活動の様子を発信していく。 ・行事の際の、活動の様子についても、引き続きホームペ ージにおいて発信していく。特に宿泊行事では、進捗状況 を適宜掲載し、取り組みの周知に努める。 ・コミュニティ・スクールの取り組みについても、本校生徒 のボランティア活動を中心に、地域での活動に積極的に参 加することを継続するとともに、コミュニティ・スクールの 企画で生徒、保護者だけでなく地域の方々にも参加して いただける講演会を開催する。	
		Ⅴ－４	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育 している。					35	52	6	1	9	12	1	0	0	0	8	7	0	0					
		Ⅴ－５	学校はコミュニティ・スクールを推進し、保護 者・地域住民等が学校運営に参画し、学校と一体 となって子どもたちを育む体制を構築している。					46	35	8	1	15	9	4	1	0	0	10	4	1	0					
	特色ある 教育活動	Ⅴ－６	学校は、小中連携への取り組みに関する教育を推 進している。					50	42	10	3	18	10	4	1	0	0	12	6	2	0	・三校での年3回の授業参観、交流を通して、 学習指導並びに生活指導について意見交換 を行い、9年間の学びの連続性について検討 を行っている。	・地域の方々に取り組みの説明を 行い、ご理解をいただいた。	B	・取組内容の周知が不十分であった。次年度は研究発表も 控えているため、三校での情報発信をさらに積極的に行 い、周知を図っていく。	
Ⅳ	働き方改革	Ⅳ－１	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学 校」を意識した業務分担等により、組織的に業務 の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。														5	9	1	0	・管理職、主観教諭、主任教諭との会議や打 合わせを密に行い、日々の情報共有を行う ことで、連携の強化及び適切な業務分担に努 めている。	・地域の方々に取り組みの説明を 行い、ご理解をいただいた。	B	・取組内容の周知が不十分であった。次年度は周知の方法を 含め検討し、改善を図っていく。		

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある